

# 東京お茶の水ロータリークラブ



奉仕しよう  
みんなの人生を豊かにするために  
2021-2022年度 RI 会長 シェカール・メータ

「My Purpose♥」を起点とし  
「Inspiring」へ

2021-2022年度 クラブ会長 西村 美智子



## 本日の卓話

## クラブ協議会

### 11月10日ガバナー公式訪問にあたり

#### プログラム

司会進行 神保 宏充会員  
開会点鐘 西村美智子会長  
君が代・我らの生業（ピアノ演奏のみ）  
ゲスト・ビジター紹介 中野 広行会員  
ニコニコ報告 神保 宏充会員  
会長報告 西村美智子会長  
幹事報告 海江田健司幹事  
出席報告 神保 宏充会員  
閉会点鐘 西村美智子会長

#### ゲスト

米山奨学生 チ ミン カンさん

#### ニコニコボックス

西村会長 チミンカンさん、卓話を楽しみにしております。  
張 会員 「緊急事態」解除されほっとしました。  
山下会員 チミンカンさんの卓話を楽しみにしております。  
計9,000円 累計198,146円

#### 西村美智子会長

奥山会員は退院されましてオンラインで参加されていましたが、ご病気が再発し年内はお休みします。奥山会員は奉仕プロジェクトの委員長ですが、奉仕委員会に委員長が割り振られていますので、委員長の皆様には奥山さんのフォローをお願いします。

#### 海江田健司幹事

- ・10月度定例理事役員会を開催いたしました。新入会員候補の秋篠くるみ氏が承認されましたので7日間公示のお知らせを配布致しました。10月13日は休会、10月20日（水）夜間例会を昼の例会（東京ドームホテル）に変更しました。卓話の時間は、クラブ協議会を開催します。11月10日ガバナー公式訪問にあたっての予行練習を致します。
- ・ロータリー希望の風へのご協力ありがとうございました。＜地区関係行事＞10/14（木）中央分区分ゴルフ予選会に、土居会員、大原会員、牛島会員、岩佐会員、木宮会員と私が出席致します。

#### 出席報告

会員数	38名	ゲスト	1名
出席数	19名	ビジター	0名
ZOOM	1名		
欠席数	18名	合計	21名

#### 今後の例会

10月27日（水）（於）東京ドームホテル  
B1F「シンシア」オープン例会  
「演題未定」  
加藤登紀子様  
11月3日（水）祝日休会  
11月10日（水）「公式訪問にあたり」  
第2580地区ガバナー 若林英博様  
11月17日（水）「通訳の上手な使い方」  
東京丸の内RC会長 古山真紀子様  
11月24日（水）（於）ブックハウスカフェ  
「演題未定」  
藤森もも子様

#### 米山月間の由来

国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間に加え、日本独自の月間テーマとして、10月は米山月間となっています。なぜ、10月なのでしょう？

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日～7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月では各クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多いなど現実的な支障があったためです。そして何よりも、東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。

1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。



## ミャンマーで何が起きているのか 米山奨学生 チ ミン カンさん

私の母国であるミャンマーでは、クーデターが起きて9ヶ月目ですが、ミャンマーはいまだに大変な状況にあります。せっかくなのでこの機会にミャンマーの情勢についてお話しさせていただきたいと思います。

ミャンマーの現状を知るためには歴史を知らなければいけないと言えるくらい関連性があるので、ミャンマーの歴史についても簡単にご説明いたします。

今日のお話の内容はミャンマーの歴史、2021年2月に起きたクーデターとクーデター後のミャンマーです。

### 1、ミャンマーの歴史

- 1886年～1947年：イギリスの植民地  
少数民族地域とビルマ族の領土を統一されました。
- 1948年：イギリスから独立  
アウンサン将軍→「建国の父」  
連邦制を作ろう」と少数民族に約束  
連邦制が設立されないまま、アウンサン将軍は暗殺されました。
- 1948～1962年：連邦制のない民主主義国家  
少数民族地域において武装勢力が誕生→国軍との戦闘が徐々に過激化  
国内避難民が増えてきました。
- 1962年：1回目のクーデター  
ネーウィン将軍によるビルマ式社会主義  
教育、経済やメディアなどが国営化  
突然紙幣の無効化  
国軍による独裁政権が長期化
- 1988年：大規模な学生デモ  
アウンサンスーチ氏が母の看病で帰国  
スーチ氏→民主化運動の指導者  
軍の弾圧により3000人以上が死亡  
民主派を拘束し、民主運動参加者の家族は迫害されました。
- 1990年：初めての複数政党制選挙  
スーチ氏率いる国民民主連盟（NLD）が圧勝  
国軍が政権を掌握し続けました。  
スーチ氏と文民政府の幹部を拘束
- 2011年：軍事政権→民主主義  
<良い点>  
スーチ氏を釈放  
海外投資による経済の発展  
スマホの普及  
言論の自由 → メディア、政治  
<悪い点>  
軍服を脱いだ軍人が議席の25%を占めました。  
国軍にとって有利な2008年の憲法  
国軍が国の経済を掌握
- 2012年：NLDが補欠選挙に勝利  
スーチ氏が初めて国会議員になりました。
- 2015年：NLDが総選挙で圧勝  
2008年の憲法を改正しようと努力し続けてきました。
- 2020年：総選挙でNLDが2回目圧勝

### 2、2021年2月になぜクーデターが起きたのか？

「2020年の総選挙に投票の不正があった」と国軍が主張

スーチ氏と与党幹部を拘束  
国家緊急事態宣言を発令  
来年に総選挙を再度行うと声明

### 3、国民の反応

- 2月  
平和的デモ  
デモ参加者の過半数はZ世代（1996年～2015年の間に生まれた人）  
公務員のCDM（Civic Disobedience Movement → 市民的不服従運動）→ 行政機関、医療機関や学校などの職員
- 3・4月  
都市部で軍による弾圧の過激化  
少数民族に対する国軍の残酷行為に一般市民が認識し始めました。  
拘束された若者は刑務所で拷問を受けさせられます。  
死亡者数1158人、拘束者数7079人（10月4日現在）
- 5・6月  
若者が実家を離れ、少数民族地域で訓練を受け始めて防衛隊を組みました。  
平和的なデモだけでは犠牲になるしかありません。  
デモ活動は減少し、少人数のゲリラデモしかできません。
- 7・8月  
コロナ第3波  
デルタ株の感染者が急激に増加（10人に9人が感染者）  
酸素ボンベの不足、医療機関の崩壊  
国軍は酸素ボンベの工場を閉めさせました。
- 9・10月（現在）  
国民防衛隊と国軍の戦い  
国軍が家宅捜索で若者を拘束  
外出の際に携帯がチェックされます。  
学校の再開が無理  
インフレーション  
昔：1円→13チャット  
今：1円→17.5チャット  
若者の夢や自由は奪われたまま

最近、ミャンマーのニュースが報道されなくなっていると思いますが、軍のネット遮断によって情報が海外に届かなくなったのが一つ理由です。特に地方や少数民族地域などで戦闘が激しいのに、ネットが遮断されているので情報を全く入手できないのです。都市部ではネットが使えますが、軍に向けて市民の防衛隊の攻撃がゲリラで行われています。そもそも軍がクーデターを起こさなければ、若者が武器を持つ必要はないはずです。一番恐ろしいのは武器を持った若者も含めて、ミャンマー国内外の若者のほとんどはこの9ヶ月間毎日苦しい生活をしています。それに、若者の夢や自由は奪われたままです。